（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和６年度　学校自己評価システムシート（県立羽生第一高等学校）

e16

目指す学校像	地域の期待に応えるため「自主・自律　求めて強き風に立つ」の精神のもと、　積極的に課題解決に挑戦する生徒を育成する。

重点目標	1　基礎学力に裏打ちされた学力向上の結果、高いレベルの進路実現を図る。 2　保護者と連携して、地域の模範となるような規範意識を醸成する。 3　活気に満ちた生徒の姿と特色ある教育活動を発信し、開かれた学校づくりを推進する。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	５　名
	生徒	３　名
	事務局(教職員)	９　名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（２月１日 現在）			実施日　令和７年２月５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	（現状） 生徒の進路については多岐にわたり、進路実現の達成が求められる。目標の設定と達成に向けた学力向上は必須である。校内での対策として、朝読書や新聞活用等の取組みを行っているが、明確な成果をあげるまでは至っていない。令和５年度入学生から導入されたタブレット端末では、授業を始めとする教育活動等で、効果的な活用が求められている。 （課題） 生徒個人の目標の設定と進路実現に向けた、主体的な姿勢の育成が求められる。また、タブレット端末の効果的な活用方法の検証も必要であり、観点別評価の共通理解のもと、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善につなげていく。	目標や進路希望を見据えた学習活動の充実を図る。	○生徒の学習に対する意識改革と、効率的な学習活動を定着させる。 ○生徒の主体的な学習時間を確保させる。 ○学びの基礎診断に基づいた生徒個人への指導を実践する。 ○教育活動におけるタブレット活用を研究し、授業改善とともにICT教育の充実を図る。	○明確な目標設定を行うことができたか。目標達成に向けて取り組みを行っているか。 ○主体的な学習時間が増加したか。 ○学びの基礎診断の結果の向上は見られたか。 ○校内ICT環境の十分な活用を進め、教職員のスキルアップにつなげることができたか。	○各学年で実施された進路指導によって、進路を考える機会となった84.5% ○家庭での学習時間定着は25.3% ○学びの基礎診断は明確な向上が見られなかった。 ○総探、新聞教育（NIE）活動から視野の広がりを実感した生徒の割合57.9%（昨年度平均67.8%） ○ＩＣＴ機器を有効に活用した教材研究を積極的に進めている。94.7% ○観点別評価の理解と指導法の工夫100%	B	真面目で誠実な生徒が多く、落ち着いた環境で学校生活を送っている。しかし、生徒の積極的な活動には課題が残る。明確な目標の設定とその取組みへの意欲によって、行動は大きく変化する。 ・取組結果への達成感を覚えさせ、意欲的に行動する生徒を育成する。 ・教育活動実施前に目的や意義を理解させる。 ・生徒個々の高い目標設定やその実現に向けた取組（家庭学習や自主活動等）にも作用すると考える。 ・タブレット端末導入による効果的な活用を行う。 進路指導においては、生徒や保護者が期待する指導が概ね実施できている。 ・多様な進路に対応した情報提供と個々への指導を実施したい。 ・学力の向上を図り挑戦する意欲を身に着けさせる。	・アンケートの結果から保護者の満足度が伺える。 ・「朝読書」の成果が表れていない。時間を設け、取組が行われているころを鑑み、もう一工夫必要と思われる。 ・今後の公立中堅校は困難が予測される。独自の取組を行うことによって（大学進学への取り組みなど）関心が集まるものと考える。 ・現在は公平性の観点から、個別の補習は厳しい状況となっているが、生徒の背中を押してあげるような対応は必要なのではないかと考える。方法は難しいが取組をお願いしたい。 ・情報端末の発達により、読書離れが進んでいる。細かな情報提供と、丁寧な指導を継続してお願いしたい。
		段階的な進路指導により、進路実現を達成させる。	○学年毎、段階に応じた進路指導計画を策定し、効果的な指導を検証し継続な指導を行う。 ○生徒個人に主体的な目標の設定を行なわせ、具体的な達成行動を実践させる。 ○保護者の進路に対する意識の向上と、学校との協力関係の構築を行う。	○学年毎に進路指導を行うことができたか。 ○生徒の実態に適した進路行事の充実と個に応じた進路選択を支援できたか。（教員アンケートにより肯定的な意見が多数を占めたか。） ○的確な情報提供が行われ、進路指導への満足度が高まったか。（生徒・保護者アンケートへの回答は高められたか。）	○各学年と進路指導部の連携によって学年別の内容で進路指導を行った。 ○生徒が各学年で実施された進路指導によって、進路を考える機会となったと答えた割合84.5% ○家庭での会話を行った割合、保護者97.8% ○進路指導において適切な指導ができたと回答した教員の割合100% ○大学入学共通テスト91名受験	A		
2	（現状） 礼儀正しく、真面目で落ち着いた生徒が多い。一方で、主体的な課題解決に向けた行動力が弱い。 （課題） 課題解決に向けた主体的な行動と持続する力の育成が必要である。進路実現と生徒指導の一体化にむけ、保護者とも連携していく。	「一高基準の規範意識」を持たせ、品格ある生徒の育成を図る。	○全教職員が共通理解のもと、定期的な整容指導と挨拶指導を実施し、規範意識の醸成を図る。 ○「一高手帳」の活用を指導し、生徒の時間管理並びに自己管理及び文章要約能力を身に付けさせる。 ○校内外で実施される行事などに主体的に参加する意識を高めさせる。	○整容への意識を高め、積極的な挨拶行動ができた生徒が増加したか。 ○キャリアパスポートを意識した「一高手帳」の活用指導を理解し、有効に活用することができたか。 ○校内外において実施される行事などに、主体的に参加又は貢献できる生徒を育成できたか。	○一高基準を遵守した生徒の割合94.7%（昨年度93.9%） ○自主的に学習環境の整備を行った生徒の割合95.8%（昨年度93.5%） ○一高手帳の十分に活用した生徒の割合28.3%（昨年度30.5%） ○ボランティア活動1回以上参加19.1%	A	全般的に落ち着いた学校生活が送られている。 ・一高基準遵守のポイント数が昨年度比較で上昇がみられ、順守する意識が定着している。 ・一高手帳の活用は課題であり、思考を文章にさせる課題が残る。ICT活用を推進する状況との組み合わせを考慮したい。 ・不登校の生徒や、相談を必要としている生徒への対応も課題である。担任を軸とした教育相談活動やSC・SSWと連携し、効果的な推進のための体制の充実と生徒・保護者への周知を継続していく。	・独自の生徒指導（一高手帳や一高基準等）の方法が確立されている。しかしながら、学年が推移するにしたがって、手帳の活用頻度が減少しているようである。今後の生活において、活用頻度が求められる場面が訪れると思われるので活用の頻度を上げる工夫が日知用と思われる。
3	（現状） 広報活動に力をいれているが、ここ数年生徒募集に苦戦している。 （課題） 興味関心を持って学校広報に接してもらえる内容を発信し、効果的な生徒募集につなげていく必要がある。	保護者や地域との関係を維持し、魅力ある教育活動の様子を発信し、生徒募集につなげていく。	○広報媒体を有効に活用し、適宜情報の発信を続けていく。 ○コロナ禍からの移行に尽力し、地域連携や異校種交流を積極的に進め、学校理解につなげる。 ○学校広報誌を定期的に発行し、教育活動の理解を求めていく。	○定期的な情報提供など、内容とともに的確に行えたか。 ○年度内に地域や異校種からの要望に応え、交流を推進することができたか。 ○広報誌の発行や情報の提供によって、受検生の増加を見ることができたか。	○学校説明会及び相談会を6回実施した。 ○中学校での訪問説明会を行った。 ○ＨＰ更新を年６回以上実施した教員の割合68.5%（昨年50.0%） ○保護者に対し「安心安全メール」での情報提供を行った。	B	的を射た広報活動は充分ではなかった。「開かれた学校」を目標に、広報の方法や内容の充実を検討し今後に勧めていく。 ・受検生が関心を高める内容は何か、内容を充分に検討し発信する。 ・ＨＰでは、日々の教育活動や部活動等、昨年度より積極的に更新した。	・保護者における配付物の理解度について、ほとんどの方が理解を示してくれている。素晴らしいことである。また、「開かれた学校づくり」への取組も行われ、地域への理解度が増している。